

古くから伝わる技と道具を いまに伝える

戦前からあった太子講から出発

一般的に聖徳太子像といえ^{しやく}ば^ある^いは^かま^どを^もつ^てい^ます。ところが指^{さし}矩^{がね}を手にした聖徳太子像を見かけることがあります。実は聖徳太子は大工や左官、木工職人の神様として古くから崇められてきました。指^か矩^{じやく}とは曲尺とも呼ばれるL字形をした長さや角度を測ることができる道具で、昔から大工や木工職人が使ってきました。この指矩の技術を聖徳太子が広めたと伝えられています。そして室町時代頃から職人さんたちが集まり太子講が開かれるようになりました。やがて太子にお詣するだけでなく、会合としていろいろな取り決めなどもおこなわれるようになっていきました。

愛知県内で地域ごとにおこなわれていた太子講から出発した組合が集まり、昭和23年に愛知県大工労働組合連合会を発足させました。昭和30年には日雇健康保険組合を設立、戦争で焼失した聖徳太子像再建に取りかかり、翌年、太子堂を完成させました。連合会は昭和39年に愛知県建築労働組合連合会に、同46年に愛知県建築組合連合会に名称を変更しました。



規矩術の講習など、伝統技術を継承

昭和54年に愛知県和裁縫製業組合、愛知県営業写真家連合会と共に職業訓練法人名古屋職業



訓練協会を設立しました。新しい技術や知識、あるいは法律知識などを習得してもらい、木造住宅技能検定講習会、建築士受験のための講座などを開催する一方で、指矩をつか^{きく}った規矩術、あるいは槍^{やり}鉋^{がんな}、鉋^{ちような}の使い方といった伝統技術も伝えています。

これらの道具が一般住宅建設で実際に使われることは無いでしょう。しかし歴史的建造物などの修復などには必要とされる道具です。一度失われてしまった技術を簡単に復活させることはできません。そのためにも、組合員の中にいる宮大工さんが訓練校の講師として伝統技術を伝えています。

いまの住宅の多くは、現場では組み立てるだけのプレカット工法が多く、昔のような大工技術が必要とされなくなっています。しかし増改築には大工技術が必要です。訓練校では伝統の技術を学びつつ、将来は増改築もできる大工の養成に力を入れています。

DATA ■愛知県建築組合連合会

所在地：北区清水五丁目6-9 国保組合会館内

- ・昭和23年：愛知県大工労働組合連合会設立
- ・昭和30年：日雇健康保険組合を設置
- ・昭和39年：愛知県建築労働組合連合会に名称を変更
- ・昭和46年：愛知県建築組合連合会に名称を変更
- ・昭和54年：名古屋職業訓練協会設立